

## 平成26年度 第3回函館市福祉政策推進会議 会議概要

### ■日 時

平成26年11月5日（水） 午後6時30分～8時3分

### ■場 所

はこだて療育・自立支援センター 多目的室

### ■協議事項

- 1 「はこだて療育・自立支援センターの運営状況」について

### ■出席委員（6名 ※欠席委員なし）

池田委員，岩崎委員，小岩委員，永澤委員，三浦委員，丸藤委員

### ■事務局職員

- ・保健福祉部 種田部長，藤田次長，  
地域福祉課 佐賀井課長，久慈主査  
はこだて療育・自立支援センター 後藤センター長，渡辺主査

### ■会議要旨

- 1 開会
- 2 協議事項
- 3 その他

**池田座長**

本日の協議事項が「はこだて療育・自立支援センターの運営状況」についてであるが、会議は8時ぐらいまでを予定しているので、ご協力をお願いします。

**佐賀井課長**

協議に入る前に施設見学をしていただきたいと思うが、どうか。

**池田座長**

事務局から話があったが、よろしいか。

**委員**

異議なし

－ 施設の見学 －

**池田座長**

それでは、会議次第に従って進めていくが、協議事項の1「はこだて療育・自立支援センターの運営状況」について、事務局から資料の説明をお願いします。

**事務局（後藤センター長）**

資料1「はこだて療育・自立支援センターの運営状況」について、説明させていただく。

－ 資料の説明 －

**池田座長**

今、後藤センター長から説明あったが、何か質問はあるか。

**三浦委員**

函館市以外の自治体からの利用はあるのか。

**後藤センター長**

診療所が一番多く、その20%は渡島・檜山圏域からの外来で、知内、瀬棚、長万部、八雲、特に、学校の紹介が多い。そういう診断をつけて、次につなげていくという一つの段階。

**池田座長**

知的の子どもとか。

### 後藤センター長

発達障がいの子が多い。

この500人、600人のうちの20%は市外の人。

### 三浦委員

その人たちの負担は診療報酬か。

### 後藤センター長

診療報酬である。

### 三浦委員

経費負担について、建設時に話合いが1回かもたれたのか。

### 後藤センター長

建設時にそこまではない。

とにかく老朽化している施設を一つにまとめて、機能アップしていくということで、最初の整備構想の時には、常勤の医師も配置するような計画ではなかったが、地域療育センターの待機期間が1年を超えるようなことがあり、何かしら公立の施設としての対応が必要ということで、専任の医師を常勤で配置することになった。

### 種田部長

診療所自体は運営費からすると収支はとれている。だから、あとは建設費の問題。ここの建設費は合併特例債をあてている。

### 後藤センター長

3割弱ぐらい。

### 藤田次長

7割が国。

### 種田部長

3割は自己負担だが、そのうちの2割を他の町村から集めるのは、なかなか難しかったのだろうと思う。

### 池田座長

市立病院もそうか。

### 種田部長

そうである。本当はこれだけの施設・・・私自身もかなり充実した施設だと思って

いるが、本来は北海道がやるべき仕事ではないのかと思わないわけではない。でも北海道の財政状況で建てるというのも、また難しかったのだろうと思う。合併特例債でやらしていただけたということで、良かったのかなと思う。

#### 丸藤委員

道南のほかの町に、これだけのレベルの施設はないのか。

#### 種田部長

ない。あと石川町の侑愛会がやっている渡島地域療育センター、そこが、診療所機能を持っていて、うちよりも、もっと受けている。

#### 後藤センター長

職員数も多く、歴史もある。

#### 種田部長

渡島地域療育センターの待機期間が1年を超えるような話だったので、うちも診療所があったほうが良いということで開始した。できた段階では、こちらに患者はいないので、向こうも待機期間が6ヶ月と、大分短くなった。

#### 後藤センター長

そうです。

#### 種田部長

大分短くなったが、2年半経って、また向こうは1年を超えている。こちらは今・・・

#### 後藤センター長

年間200人ぐらいの新患が入ってくる。その人は常に、新患の患者として回ってくる。2人の医師が相互に連携をとりながら、セコンドオピニオンのいろいろなことが可能になってきている。医師が一人ということではないので、両輪ということで、メリットはたくさんあるのかなと思う。

#### 池田座長

一箇所に全部集めてメリット、デメリットあると思うが、そのメリット、デメリットはどうか。

#### 後藤センター長

メリットとしては、まず環境が良くなった。それからランニングコストとしては人件費の削減ができた。

## 池田座長

個々でやるよりも。

## 後藤センター長

管理費は、当然上がった部分もある。ここは、職員スペースを除いて全館冷暖房なので、そういう部分は上がったが、いろいろな事業の中で委託できるところは委託しながらやって、統合前の3つの時よりも、超過負担というか、歳入不足というのは解消されてきているのかなと思う。

## 種田部長

実際に子どもたち、障がいのある人に関わっていた人数を減らしているわけではないが、管理部門を縮小できるので、そこは、例えば、所長も一人、それぞれ用意しなければならない給食も一つにできるとか、そういったようなコスト削減にはなっている。

## 後藤センター長

職員間のモチベーションが高くなった。やはり常勤の医師がいるということは、こういうことかなと思う。つぼみの保育士も自分で勉強する。医師から紹介してもらったりしながら、自分たちで研修に行ったりしている。そういう知識がないと、なかなかやっていけない事業所なので。

## 種田部長

常設で医者がいるというのは刺激として大きい。

## 後藤センター長

メリットのほうが多い。

## 岩崎委員

利用者、家族にとってはどうか。

## 後藤センター長

良いと思う。障がい者のほうの事業所は、日吉町のともえ学園から通っているということで大きく変わらないけれども、支援の環境が良くなっているし、養護学校からの問合せも多くなっている。そういう形で良くなっていると思う。

## 池田座長

前の建物はすごく古かった。

## 種田部長

良くなっただけに来たい人達は多くなる。けれどもこの施設はもうこれ以上増築できない。

#### 後藤センター長

児童発達支援だと6箇所ぐらいある。つぼみ、はぐみ、音の森とか、いろいろな児童発達支援事業所が少しずつ増えているので、これから、やはりそういうところが少しずつ増えて、いろいろなところを利用する、そういう形につながっていく。

#### 池田座長

高校、中学校でもそうだけれども、文化祭とか学校祭があるが、ここはそれぞれあるのか。

#### 後藤センター長

全体でやるのは年1回。合同で交流会的な事業を1日開催している。

#### 池田座長

コラボレートしながら。

#### 後藤センター長

そうです。全員集まると160人ぐらい、全員来るとパンクしてしまいますので。

#### 池田座長

いろいろな人に知ってもらふ必要あると思う、知らない人もいる。

#### 後藤センター長

見学は2千人ぐらい来ていると思う。

#### 池田座長

資料の課題のところを読んでいけば、もう少し人的な配置をしなければ。もう一つは、例えば、ここで自立のための訓練をして、高校、短大、大学みたいな、上の部分を作る計画はないのか、市として。

#### 後藤センター長

それは今のところない。

#### 池田座長

せっかくここまできたのだったら、ここから上の部分というものがあれば、もっと自立に役だっていくのかなという感じがした。

### 後藤センター長

ただ、児童福祉法のつぼみ、はぐみは、ここが終わると義務教育に行く、高等養護に行く人もいるし、普通学校に行く人もいる。やはり、こういう施設がバックアップするから、幼稚園、保育園がどんどんそういうような受け入れができると思う。そういった側面からの応援ができる。

### 池田座長

私は、シアトルに行った時に、小学校で、視力障がいとか、聴力障がいとか、そういった子どもたちが、全員同じ教室で同じ授業を受け、その教室にはワシントン州立大学の学生がついていた。大学生たちの授業の割り振りなどを運営しているボランティアセンターがあって、そのボランティアセンターを運営しているのは全部大学生。

大学生たちが教授と連絡を取りながら、そこに何回か行けばその先生の何時間を認めるというような形であった。先生が、こういう画用紙に $5 + \square = 12$ と出すと、大学生はそれを全部指文字や手話でやるから、視力障がいだろうが、聴力障がいだろうが、みんな手をあげる。そんな形でやっていた。

三浦先生がいつも言っているけれども、福祉政策の全体を考えていけば、そういったところまで踏み込んでいく必要があるのかなという感じはしないでもない。だから、そういったところから考えれば、普通教室に入って一緒になって授業を受けていくというシステムも必要になってくるのかなという感じはする。どんどん少子化していくのだから。

### 三浦委員

3園統合について、私もやりだした頃にいた訳でもないが、責任の一端はあるのだけれども。3園が統合して、その頃考えていなかった診療所が加わって、良いほうに働いているけれども、3園統合というものを函館市の障がい児・者の福祉のどういう位置付けをし、障がい福祉計画の中でどういう位置付けをしたのかというのが、後藤センター長、運営の方針で書いてくれたけれども、統合するにあたって、ここをこういう位置付けにするという明言というか、何かそういうことはしなかったのか。

スタートする時点で明らかにしていれば、3年経ったらどのぐらいまで実現したのか、障がい福祉計画にも載せて、今後、ここの施設をこう位置にしていこうとかという、そういうのも描けるし、評価・検証もできるのだけれども、何かそういうのが、少し見えない。

### 種田部長

3園統合の話が進んでいる中で、支援法のサービスの位置付けが変更になったり、最後いろいろと、ドタバタしたようだ。

### 後藤センター長

第3期の障がい福祉計画の障がいのある子どもに対する支援の強化というところ

で、センターでは、いろんな専門医だとか、そういう位置付けをしながら、地域の療育システムの構築を図るということを記載したが、その具体的な取り組みというところまでは、まだ至っていない。

### 三浦委員

やはり市として、明確なコンセプトというのか、何かそういうもの持っていたほうが良いのではないかなという気がする。

### 種田部長

診療所を作ったのは、やはり早期発見、早期療育で最後の自立支援までという一貫したものを、ここで取り組もうということがあると思うのだけれども。義務教育の期間抜けるという部分が障がい児と障がい者の間の継続性の問題と感じている。

### 小岩委員

そこが、やはりものすごく問題があると思う。まず、3園統合して良かったのは、こういう子どもが治る。治るというよりも、親にこういうふうになるということを見せられること、それから、そういう人達を支援した体制があるということ。だから、今できることは、その入口にいる親たちがすごく不安だし、ある意味不安なのは分かるけれども覚悟もしていかなければいけない。そういうことは、やはり入口の人にとって出口が見えること、それがすごく大事。

私は附属養護にいて、あそこの12年というのは、小学校1年生から高校3年生までいるので、そこの一貫性はすごく、ある意味で発達する部分もあるし、こちらで覚悟していかなければならない部分もあるし、そういうことはすごく大きかった。だから、統合した中で、この支援計画を作っていく中で、ライフステージを考えていくのだから、やはりそういうものも組み込んでいくと良さになっていくのかなと思う。せっかく統合したのだから、そういうことを大事にしながら組織していくということが可能だなというふうに思った。

二つ目に思ったのは、やはり教育。私は元々教育だから、そこがすぽっと抜けるということが、とても不幸なことだと思う、子どもにとって。だから、ある意味ここは自立支援だから教育も含めて色々な会合のできる場所にしていく。特に節目になるところ、保育園から小学校に上がる、いわゆる厚生労働省から文部科学省に移行していくような場面で、きちんとミーティングが行われていくような、そういう場所にある程度なっていけば、上手に学校とタイアップというのができると思う。そのタイアップの仕方を、自立支援センターだけではありませんで、教育委員会だとか、いろいろなところと話し合いながら確立していく、大きな課題だと思う。

### 岩崎委員

実際に、特別支援や普通の学校へ行き、あおばとかの就労支援まで切れる。継続的にフォローできるような体制、それをこのセンターみたいなところが、どのように調



整できるのかということが大きな役割ではないのかと思っている。

#### 種田部長

来年から、保育所等訪問支援事業、学校も含めてアウトリーチ、出ていかなければならない事業も始まる。そこでその間をフォローし、継続できるようなことが可能であれば、どこまでできるのか、まだ始まっていないので、はっきりとは言えないが。

#### 池田座長

センター長、今の意見に何か。

#### 後藤センター長

特に、相互の連携ということについては、医師、学校の担任、コーディネーターの先生だとか、日々、特に困り感のある子どものカンファレンスは、良くここでやっている。これから就労も含めての話になってくると、ハローワークとの連携とか、そういった関係も出てくるので、そういうようなところに、先ほどの障がい児相談支援事業とか、あとサービスの利用支援、大人のほうの計画も同じように27年の4月から作らなければならないということで、現場的にもう少し動くのが早くなるような気がする。

#### 池田座長

北斗市、七飯町にこういう子どもがいないの。

#### 後藤センター長

いる。

#### 池田座長

なぜ作らないのか。

#### 後藤センター長

それは、地域療育センターとか、うちみたいなのところがあるので。

#### 小岩委員

北斗市は結構進んでいる。

#### 種田部長

仕組みとしては、社会福祉法人侑愛会と学校法人侑愛会と両方で、養護学校も自分たちでやっている。だからある意味、教育も含めて一貫して、北斗市の侑愛会はやっている。

### 池田座長

2市1町でお金を出して作ったらどうなるのか。そういう一貫した流れの中でやっていけるような、そういうものを作ったらどうなのか。

### 種田部長

侑愛会には、小学部、中学部、高等部もあり、この地域ばかりでなくて、結構全国から来ているが、ある意味、教育は、今、普通学級でも、特別支援でも、どこの学校でも受け入れるようなことになってきているし、養護学校や当別の渡島コロニーがあるので、そこまで来るといふ人達は、最近では減っているようである。小学部、中学部、高等部ともに定員割れしていると聞いている。

### 池田座長

私の知っている人もいる。生まれた時に、へその緒が首に絡まって、血液が回らなくなって知的になって、渡島コロニーにずっといて、今も入っているのだけれども。

### 種田部長

あそこは、生まれてから死ぬまで、一貫して最初から最後まで面倒を見てくれる。

### 岩崎委員

本当は、そういう様な一つのコロニーの中に集約されるのではなくて、本来はもっと地域に開かれて、それが利用できるような形で行くのが求められると思う。今までのような集約型の多機能を否定はしないが、もっと地域に開かれた中で、いろいろな対応ができて、そうすると相談から、最初の入口から学校がどうつながるのか、就労の中で、今度成人の、特別支援の計画に、継続してそういった担当にどうつなげていくのか。さらに、今度、高齢化していく利用者が、どうそれを続けていく。今度、介護保険適用になっていく中で、将来にわたってずっと障がいを抱えている人が発達していく中で、それぞれのステージに応じて、いろいろな求めというのを、それを誰が責任をもってずっと継続していくのかということ、相談機関と、個別支援、次に送って、それでいいという形の、連携は連携で良いが、その辺の責任をもってつないでいくようなことが求められるのではないかなという気はする。だから先ほどの説明の中で、まず発達の子童相談機関の取り組み、来年度からですか、大切なことだと思うし、利用者的高齢化と同時に親御さん的高齢化、その人達の生活拠点を、どう支援しながら持って行くのか、この辺は今どうなっているのか。障がい者分野と高齢者関係のところ、法律上とか、支援の仕方、継続性の形も含めて、どうなっているのか。

### 後藤センター長

根拠法がちょっと違う。

### 岩崎委員

具体的にどういうふうに違うのか。

#### 種田部長

障がいの入所施設で、もう30年も経っているような施設。入所した時には30歳で、もう60歳以上になって、中には介護保険の対象となっている人もいるのだが、基本的に障がいの施設に入っている人は65歳を過ぎても、介護保険適用にはならない。その施設は高齢化が進み認知症の人もいるが、障がいの施設なので夜勤は基準上1人。だけど認知が入っている人がどんどん増えてきているので、とって1人では対応できない、できれば介護施設に転換したいという話もある。でも介護保険適用になると今度障がいのサービス使えなくなるので、それも本人にとって良いのか悪いのかという問題がある。

#### 岩崎委員

ずっと継続性を含めて、それが制度上の本当の課題になっているところだと思う。

#### 種田部長

侑愛会も、知的障がい者施設の高齢化は進んでいるが、侑愛会は組織が大きいので、障がいの施設のまま、人を基準以上に配置して対応しているが、小さな法人だとそれができない。本当に、私も非常に大きな問題だという認識を持っているが、今のところ、そのギャップがクリアできない。

在宅にいる障がい者の人たちは、65歳になると基本的に介護保険になるのだけでも、介護にない障がいのサービスは障がいとして受けることができる。介護を受けながら障がいのサービスも受けられるのだけでも、そのことを、ケアマネジャーが、十分に分かっていない。

#### 岩崎委員

その辺は、個別の支援計画でどういうふうに継続してつなげていくことの重要性。

#### 種田部長

ケアマネジャーが介護保険のケアプランを作る時に、障がいのサービスは使えませんかと言ってしまふ。ケアマネジャーは障がいのサービスのことを分からないから、障がいのサービスのことも勉強してもらわなければならないとは言っているが、ただでさえ忙しいケアマネジャーに、障がいのことまで覚えれというのも酷だし、利用者にとっては大きな問題だという認識を持っている段階で留まっている。

#### 岩崎委員

ただ、それをせっかく認識してきた中で、それを例えば、核になって、そういうことを主張しながらやっていくという、そういう形の何か役割として求められているのではないかというような気はする。

### 三浦委員

私もさっきから言っているのは、ここのセンターは、岩崎先生が話されたことと同じなのだけれども、家族、親互さんからしてみれば、年をとっていく間に、いろいろな所を利用しなければならない。だから変な話、生活する場所、グループホームをここにするととってもだめでしょ、やはり別なところに、いかなければならない。そこをきちんとつなげて、学校に行く、卒業して働きに行く、それから寝泊まりする場所、そういう組み立てをきちっと見えるような形に考えるような、その中心になるということだし、そうすると、このセンター長の書いた今後の課題というのは、当然、全部必要だ。人がいなければできないことなのだから、これは、必死に考えないと。これは当然人の力でできる仕事なのだから、他の部局の施設とは違う。初めてそうやってできあがることだから、それをきちんと市長まで理解してもらって、全部に予算つけてもらわなければだめ。

### 種田部長

ここで、約束はできないですが。

### 三浦委員

市民が言っているのは、きちんと生活する場所としては、残念ながらここはだめだ。また、そういう意味で知らない人が多い。きちんと、ここは函館市の障がい児・者福祉の中心、そこまできちっと考える、相談にのってそしてアドバイスする。

### 岩崎委員

いろいろなアドバイスをして、いろいろな方向性が見えるわけですよ、そういうところの場として。

### 三浦委員

そういう場所にして欲しいわけ。

### 小岩委員

相談支援事業も入口だけでなく、一生通じてできるようにしていくという、一気にいかななくても。だから、さっき高齢者の問題が出たが、その前に就労の問題がある。ここで全部、あおばでずっと抱え込んできたというのがある、だけど、やはりそういう人たちはモデル。ここに入ってこない人は、授産施設にいたり。私は、一条学園に毎年行っているが、そこから見たらものすごく良い環境。

だから、こういう環境が一つのモデルになって、いろいろな助成が出てくるだとか、授産施設だとか、親たちが民間でやっているようなところも含めて。労働に関する相談もする。だからハローワークも、ソーシャルワーカーも入っているし、いろいろなことが対応できるような、一生を通じて何が必要かという、ケアマネジャーの研修会

も開けば良い。

学校だったら、こっちの療育の観点から、学校は何をして欲しいのかというようなことも、こういう場で、本当に開かれていくということが、私はセンターの機能だなというふうに思う。

### 池田座長

人的配置が全然足りない。

### 小岩委員

それはもう絶対足りない。

### 三浦委員

結局、いろいろな法律の支援・手法、支援制度が変わって、ある程度落ち着いてきた。障がい者総合支援、障がい者権利条約、そうすると一定の線がでてきて、それだからやるというわけではないが、やはりそういうタイミングがある。そこに函館市は福祉都市を目指しているのだということを言っているわけだ。それならば、この器をうまく生かさないと。

全然話が違うけれども、グループホームを、すごく求めている人はたくさんいるが、ここは残念だけれどできない。それで民間のそういう施設、ちょうど作業所みたいなところが、普通の部屋に連れてきて、泊めているところもある。そういうこともあるから、やはり、ここが中心となってノウハウを、そして人を十分に獲得する。

### 種田部長

一方で、函館市全体の障がい児・者の生涯に渡っての就労支援を含めて、それを考えなければならぬのは、函館市の障がい保健福祉課。障がい保健福祉課が計画を作るわけだし、ここはその実践の場としてあるわけだから、ここに何でもかんでも負わせるのも、酷かなという思いもあるが。

### 三浦委員

今の機構上では障がい保健福祉課。

### 種田部長

障がい保健福祉課が函館市の将来の障がいのあり方をまとめ、ここがその実践の場で、モデル的に先導していくという場としてのニーズ、もちろん役割を担うべきだと思っているけれども、何でもかんでも、センター長にお願いしますということにはならないと思っている。

### 岩崎委員

そういう意味ではなくて、もっと広い役割として中核になるということ、それとも

っと計画で充実して、人の配置とか形のことをどんどんつける、専門家をもっと導入するというこの大きい計画の中で、それぞれの部署には、やはり専門性は必要ですけども。

### 三浦委員

高齢者、児童と障がい児・者はちょっと差があるような気がする。差がついているというのは適当でないのかもしれないが、そういう意味では、やはり中心となっている部分、ポストをきちっとしないと、今の障がい保健福祉課、なかなか無理だ。ここが一番、目に見える形があるから、やはり市民に見えるようにしてあげないと。

### 池田座長

ここは、函館市全体の中で、福祉政策をどうするのかというテーマだから、だから今先生方から出ている意見というのはすごく貴重な意見ばかりだったと思う。これを将来、政策に生かしていけるようなベストの方法というものを考えていってもらいたい。そういった意味では、皆さんの提案はすごく良いものばかりだったと思う。センター長も、もっともだと思って聞いていたと思うが。でも、一朝一夕にできるわけではないから。丸藤委員、何も話をしていないけれども。

### 丸藤委員

いや、皆さん言っているので、そのとおりだなと思っていたし、意見としては出尽くしたのかなと思う。ただ、前に、すごく嫌なニュースを見て、障がい者の人が集まるような施設を作りますというと、地域住民がすごい反対運動を起こして、できないというようなことが、東京とかそういうところでは、計画あったのだけれどもできなくなったという話をニュースで見たことがあるので、函館の受け入れは。

### 後藤センター長

ここに限っての話になるが、みなさん理解があった。中学校の特別支援学級や渡辺病院、身体障害者を受け入れるグループホームもあるし、そういう部分であまり、全部に会ったことはないけれども、声は聞こえてこない。

### 池田座長

知的とかそういう施設ばかりだけでなく幼稚園や保育園を建てるのも、ものすごく反対している。うるさいって、テレビでやっていた。

### 後藤センター長

ここは通所の事業所なので、あんまりそういうのがないのかもしれない。

### 丸藤委員

すごく安心した。

### 種田部長

市内に何か所か障がいのグループホームの計画はあるが、去年、今年、私が部長になってからは、そのような話はない。みなさん各町会とも、快く受け入れしている。そういった施設ができることによって、交流を深めていったというような積極的な町会が多いというふうに聞いている。

### 池田座長

昔はあった。施設からふらっと出て行って、隣近所の家玄関でおしっこしたりとか、そういう苦情があった。でも今はほとんど、そういう苦情を聞かない。

### 丸藤委員

それを聞いて安心した。あと、予算を増やし、人をたくさん入れるためには、やはり市民の皆さんにこういう施設があって、みなさんすごくいい活動されているということを、もっと知っていただくというのが大切、知ってもらうということは難しいことだが。

### 種田部長

ここにいる皆さんから、本当にこういう貴重な話をしていただき、大変ありがたいものと思っているが、一方では、ここの施設の抱えているランニングコスト2億とか、高い安いの議論をする人はいる。皆がみんな、2億のお金をかけても、これはモデル的なものとして、必要なものだという認識の人たちが、まあ、過半数だとは思っているが、全てではないのも事実。

### 丸藤委員

やはりみなさんが、少しでも多くの割合、それを理解する人の割合を増やしていくように、簡単ではないけれども、していかなければいけない。

### 小岩委員

やはりボランティアをもっと、それから本当にパートで、パートといたらとても失礼な言い方だけれど、そういう人をたくさん入れていく必要があると思う。相談事業もプロパーの専門家ばかりではなくて、やはり親たちのピアを作っていくとか、マザーなら、マザー同士の、そういう方法、今一杯開発されていますから、そういう方達を上手に使って、この人手不足というか、そういうものを組織していく必要がこれからあると思う。春先の会議で、イギリスからのそういう方法を取り入れてということを協議したけれども、今そういう形のもものがたくさんできているし、学生のボランティアだけでなく、シニアの人たちもいろいろやりたくて、本当に勉強しているので、その人達を上手に丸藤さんの指導の元で、組織して、そしてたくさんの方が、ここに来て、こういうお部屋を研修の場として提供してもらおうと、私はすごくありが

たいなと思う。人が入れば理解も広がっていく。

### 池田座長

旭岡にある高等養護とうちの高等部で連携して、年5回、向こうのほうで3回、うちの学校で2回、交流している。同じ年齢で、同じ高校生だ。子ども達の障がいに対する考え方が、がらっと変わる。やはり見て、体験して貰ったりすることは、すごく大事なことだと思う。だから、小岩先生言うみたいに、そういうボランティアとか、どんどん入れてやる必要があるかもしれない。けれども、さっき施設見学時に話があったように、その消火栓の所とか、あるいは、きらきらが気になるとか、いろんな気になる子ども達も結構いるわけだから。

### 小岩委員

私は、そこに関してはプロパーだから、正直いうともっと学んで欲しい。うみのほしやつくしんぼに、保育士さんたちも、教育の施設設備についても、用意しているグッズも、見てはいないが、やはりもっと、きちんとした物を揃えなければだめ、センターの機能を果たしているのであれば。やはり向こうのほうはずっと進んでいる、それが1点目。

それから勉強してきているというけれども、本当に保育園も幼稚園も困っている。誰が補っているかといったら、私もうちの先生たちも、呼ばれて子どもを見て、看取って、そして応援している、ものすごく困っている。だから、そういうことに耐えうる保育士、または指導できる指導員をきちんと育てて欲しい。ただ口で言うだけではなくて、具体で示さなければならぬ。教材を持って行って、方法を示して、そしてどうやればいいということを指導するという事は並大抵なことではないけれども、ぜひそういう保育士さんや指導員を増やしてこそ、センターとして、また税金使ってやっている意義があると思っているので、すごく厳しい言い方だが、そこを本当に頑張ってもらいたいと思う。

### 池田座長

うちの生徒は、うみのほしに行っている、あそこはボランティアを受けているので。

### 小岩委員

細かいことを言ったらきりが無いが、環境構成等については、つくしんぼはきちっとやっている。先生方は、本当によくやっているし、指導も十分できる。ああいう先生が、こんなに身近にいるというのは、日本の中だって少ない。やはりそういう人たちがいるからこそ、敷居低くして、公立だ私立だとかということではなくて、療育センターが学びながらやっていくということがすごく大事だと思う。

あと、医療に関しても、医師が頑張ってくださいって本当にありがたいと思うし、公立だからこそやっていかなければならないこともすごくあるけれども、その発達の診断と、いわゆる療育、教育の部分とが、少し乖離している。



診断受ければ、やはりこう決めつけて親たちもそこで逃れてしまうし、だけれどもこういう子どもたちをどうにかしなければならぬ現実もあるし、そこを指摘している小児科医や教育者も一杯いるので、本当にそういうことを忌憚なく実務者たちと、話をしていかなければならないと思う。

今、毎月1回、そういうミーティングを開いているが、やはり医療と現実の教育との乖離というのはすごく感じる。だからこそ、そういう組織をきちんとかういところで作って、もっとオープンな議論みたいなものを広げていかなければ、ただ人を配置しても動けないし、信頼も得られない。だから、もっと親の声を聞いたり、いろいろな形として、すぐにではなくても、信頼できる体制を整えていくべきだと思う。誰が駄目であるということを行っているのではなく、まだまだ発展途上だなというふう

#### 池田座長

ここには、つくしんぼやうみのほしとか、センターに集まって、どうするのかというような会議はないのか。

#### 後藤センター長

例えば、エリアごとみたいな、札幌はたくさんセンターがあるので、そういう連協みたいなものはあるが、函館にはまだない。

#### 池田座長

やるべきだと思う、今、小岩先生の話聞いてたら、同じ子どもたちを抱えているのだから、持っているノウハウを共有すべきではないのか。

#### 小岩委員

私的にはやっているが、きちっとしたものを組織していかない。

#### 種田部長

今は任意のグループとしてやっているのでしょうか。

#### 小岩委員

そう、勉強会のような形で。やはり、会って方向性だして、どういう方向に進むのかということ共有していく。

#### 岩崎委員

そう、一緒にやっているとすれば違うけれども、別々にやっつけてしまうと、どうだろうかということに、せっかくのいい動きが。

#### 小岩委員

なんか仲間内仲良くしているのだけれど、やはりそういうフォーマルな会をきちっと作って、お互いの連携を図っていくということも大事かな。

#### 池田座長

今日は最高の会議でした。

#### 丸藤委員

もしそういう会をやるのだったら、ぜひというのがあって、例えば、いつも同じ会場に集まってやるというのを止めて、それぞれの施設で順々にやる。何度も大門の商店街の理事会で言っても却下されたが、すごく商店街の元気な所は、商店街の理事会を、それぞれのお店でやっている。そうするとその店の良いところや悪いところが出てくる。理事会をやることによって、お店が改善されてくるということがあって、それで再生した商店街がある。なので、どこかの会議室に同じ所に集まると、結局、現場を見ないということになってしまうので、それぞれの現場で、順繰りに回りながら行っていくとすごくお互いに学ぶことがある。

#### 種田部長

そういうこともあって今日ここでやらしていただいた。

#### 岩崎委員

そういうこと、なるほどなるほど。

#### 丸藤委員

私もすごく勉強になりました。

#### 池田座長

今日は、いろいろ施設も見せてもらって勉強になり、皆さんからの活発な意見が出た。時間になったので、これで終わりたいと思う。今日はどうもありがとうございました。